2024 年度　長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	都市・地域経済学（Urban and Regional Economics） 2036-0-23-068					担当教員	瀧波　慶信 （タキナミ　ヨシノブ）		
科目区分	専門科目	必修・選択区分	選択	単位数	2	配当年次	2 年次	開講期	後期
科目特性	資格対応科目／知識定着・確認型ＡＬ								

① 授業のねらい・概要
経済のグローバル化のもとで、地域の産業政策、大都市と農村など様々な地域特性を踏まえた形態によって地域・都市を把握する必要がある。身近な社会の事象や諸課題を経済学の基礎理論に基づき理解する。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
基本的に講義形式であるが、学生自らが自分の住むまちについて調査することが必要。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
特になし。
⑤ テキスト（教科書）
テキストは指定しない。各回、レジュメを配布する。
⑥ 参考図書・指定図書
黒田達朗・田淵隆俊・中村良平（2008 年）『都市と地域の経済学（新版）』有斐閣
⑦ 評価Ａに対応する具体的な学習到達目標の目安
（ｉ）地域の課題について説明できる。 （ii）新聞やネットなどから情報収集ができる。 （iii）諸課題解決の方策を提言できる。

⑧　ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
（ｉ）地域の課題を探る	自分自身の目で都市を含めた地域の課題を発見することができる	資料等を参考に諸課題の発見ができる	見聞きした諸課題を理解できる	見聞きした諸課題が理解できない	諸課題について考えることをしない
（ⅱ）身近な生活の中の諸課題を探る	生活の中の諸課題について情報を用いて検討できる	生活の中の諸課題について情報から理解できる	生活の中の諸課題を発見しようとする態度はある	生活の中の諸課題を感じることはできる	生活の中の諸課題を考えることができない
（ⅲ）身近な生活の中の諸課題解決に向けて	現実の諸課題について理解し、解決策を提言できる	現実の諸課題について理解できる	現実の諸課題についての理解が不十分	現実の諸課題について理解しようという態度は見受けられる	現実の諸課題について全く理解できない

⑨　学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加･意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			30%	20%		100%
（ｉ）地域課題の理解へ向けて	10%			10%	10%		30%
（ⅱ）地域課題を探る方法と態度	20%			10%	5%		35%
（ⅲ）地域課題解決法を探る	20%			10%	5%		35%
フィードバックの方法	興味関心持つ都市・地域の時事問題を毎回提示させる。						

⑩　担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
日頃から身近な社会の出来事に関心を持って生活しよう。

⑪　授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	日本の地域と都市	日本の地域	120 分
2	地域の産業構造	地域の産業を探る	120 分

3	地域間人口移動	居住理由と居住地の特性を探る	120 分
4	集積の経済と都市化	都市の魅力、地域の魅力を探る	120 分
5	住宅市場①（価格）	住まいの価格の検討	120 分
6	住宅市場②（環境）	住まいと環境の検討	120 分
7	住宅市場③（公共）	住まいと政策の検討	120 分
8	都市内土地利用の分析	マイホームと仕事、学校の検討	120 分
9	最適人口規模	人口問題の検討	120 分
10	地域間交易	分業と産業の検討	120 分
11	企業立地	企業立地の実際を考察	120 分
12	空間経済学	距離問題の意義と課題を考察	120 分
13	交通問題	生活、産業と交通問題を考察	120 分
14	地方政府の役割	大きな政府、小さな政府の役割の理解	120 分
15	まとめ	生活と関連付けた問題意識を持つ	120 分

⑫　アクティブラーニングについて
講義の終盤に、振り返り用紙を配付し、各自が本時のまとめを記入する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬　実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性